



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一 氏

第 137 号

令和元年6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

理事長挨拶

令和元年を迎えて



栃幼連理事長 石嶋 勇

新しい元号が令和と決まり令和元年がスタート致しました。天皇陛下が平成三十一年四月三十日で退位されました。天皇の退位等に関する皇室典範特例法に基づき、およそ二百年ぶりとなる、歴史的な皇位の継承が恙なく行われました。皇太子殿下が五月一日ご即位され、このことにより、この新しい元号が用いられております。国家の安泰と国民の幸福への深い願いとともに日本人の心情に溶け込み我が国の歴史を紡いできました。この歴史的な瞬間に立ち会うことが出来たことは、この上もない喜びとするところであります。

ます。そのような慶賀の中、私は（一社）栃木県幼稚園連合会理事長として八年目を迎えることとなりました。今までの七年間多くの皆様のご支援ご協力に感謝するとともに引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。さて平成三十年度には国の制度改革の中で人づくりは国づくりであり教育の基礎を担う幼児教育・保育の重要性を再認識され教育・保育要領等の改訂がありました。更には令和元年十月一日からは幼児教育の無償化が実施されます。また恒久的財源確保のため消費

税が八%から十%へアップされます。この様に矢継ぎ早の大変革の中でありますが、すべての子どもの最善の利益が実現される社会であり制度であってほしいと願っております。

栃木県の令和元年度における幼稚園・認定こども園関係予算では、私学助成園に対する運営費県単補助として@六、〇〇〇円（昨年度は四、八〇〇）一、二〇〇円増額され一人当たり単価一九三、五〇〇円（昨年度は一八九、七〇〇円）特別支援教育費補助金については一人目から要望通り@七八四、〇〇〇円の満額回答となりました。また、栃幼連教職員の研修に対する補助金として従来の二本立て（栃幼連補助金三〇〇万円）と新制度対応としての使途制限のある（幼稚園特別研修費補助金三〇〇万円）これを一本化（栃幼連補助金六〇〇万円）になりました。これにより幼稚園教諭・保育教諭の更なる資質の向上を目指して研修を重ねることが可能になりました。

これらの要望は、栃木県幼稚園連合会・栃木県私立幼稚園振興財団と栃木県幼稚園PTA連合会の合同による振興活動の成果であります。また「とちぎ自民党県連」県会議員の皆様のご支援「栃木県担当部局」の幼児教育への深いご理解の賜物であります。衷心より感謝申し上げます。会

員の皆様には、今後とも支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

令和元年度を迎えて

こども政策課長 桐渕 ゆか



一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様には、本県の幼児教育の振興や充実のため、格別の御尽力と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年度は、「平成」から「令和」への大きな節目の年となりました。平成を振り返りますと、消費税の導入やバブル景気とその崩壊、東日本大震災など未曾有の災害の発生のほか、インターネットや人工知能などの新技術も普及しました。まさに激動の三十年であったと思います。そして、五月には「令和」という新しい時代がスタートしました。様々な環境変化の中にあっても、万葉集から引用された「令和」に込められた思いのように、心を寄せ合い、希望にあふれた新しい時代を皆様とともに紡いでいきたいと思っております。



さて、平成の社会環境の大きな変化といえば、我が国は、急速な少子高齢化が進行し、本格的な人口減少社会が到来しており、未来を担う子どもたちが社会全体で見守り、健やかに成長することができる環境づくりが益々重要なものとなってきております。

このような中、県では、本年一月「とちぎ子ども・子育て支援条例」を施行し、県民が安心して子どもを産み、育てることができ、子どもが健やかに成長できる地域社会の実現を目指して、結婚、妊娠、出産及び子育ての各段階にに応じて切れ目なく、オールとちぎで子ども・子育ての支援に取り組んでいるところで

す。
この条例の下、取組を更に進めるためには、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育を担うとともに、子育て支援の中核的役割も果たしていただいている皆様のお力添えがなくてはならないものでありますので、引き続きよろしくお願いいたします。

また、まさに幼児教育の重要性などを踏まえ、十月から実施される幼児教育・保育の無償化につきましても、円滑に制度が開始できるよう市町と連携し適切に対応するなど、幼稚園、認定こども園が実施する様々な事業について、引き続き支援して参ります。

子どもは、一人一人がかげがえのない存在であり、子どもがすくすく育つことは、保護者の方々をはじめ、子ども・子育てに携わる全ての方々の共通の願いです。次代を担う子どもたちが元気な声を響かせ、心豊かに成長できるよう、子育てしやすい環境の整備等を図って参りますので、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様との更なる御理解と御協力をお願いいたします。

令和元年度 定時総会

令和元年五月十六日(木)ご来賓に、栃木県保健福祉部こども政策課課長桐淵ゆか様、栃木県幼児教育センターセンター長新村ゆきえ様、栃木県保健福祉部こども政策課こども子育て支援班長 林恭子様、栃木県保健福祉部こども政策課課長補佐大根田毅様、顧問 寺尾たかし様のご臨席を賜り、宇都宮コンセーレにて定時総会が開催された。



船山副理事長が開会を宣言した後、石嶋理事長が「令和という瞬間に携われたが大きな事故が多く、残念である。これから

も笑顔で幼児教育をしていこう」と

挨拶が述べられた。続いて、ご来賓である栃木県保健福祉部こども政策課課長桐淵ゆか様からご挨拶を賜った。「県では昨年度にこども子育て支援条例を策定した。今後も資質向上を目指し、ゆたかに明るくいきいき教育してほしい」と述べられた。



議案では議長に認定こども園長畑幼稚園園長円山仁三先生を選出し、平成三十年度事業報告を石嶋理事長、各委員会委員長より報告された。

審議事項では、平成三十年度収支決算書類及び附属証明書の承認について審議し、満場一致にて可決承認され議事を終了し、中川副理事長の閉会のことばで定時総会を閉会した。

【資格審査】

(百八十七園中) 出席園 百十園

委任状出席園 七十七園

【議事録署名人】

にのみや認定こども園 上野和彦先生
やすづか幼稚園 大久保信男先生

栃木県私立幼稚園振興連盟 令和元年度総会

栃木県幼稚園連合会総会に続き、振興連盟総会がコンセーレにて開催

された。



馬場章信会長の挨拶の後、議長に円山仁三氏(長畑幼稚園)が選出された。「資格審査」会員数百七十名中、出席七十三名、委任状出席九十四名、「議事録署名人」上野和彦氏(にのみや認定こども園)、大久保信男氏(認定こども園やすづか幼稚園)、「記録」

河合智美氏(事務局)以上、一連の手続きを経て議事に入った。

【議案】

①平成三十年度事業報告並びに収支決算の承認について

②令和元年度事業計画(案)並びに収支予算(案)の承認について

③自由民主党栃木県私立幼稚園支部平成三十年度収支決算並びに令和元年度収支予算(案)の承認について

以上、三議案はすべて原案通り可決承認された。

総会終了後には懇談会が開催され、県議会議員の皆様を囲んで有意義なひとときを過ごすことが出来た。

研修会だより

第一回保育テクニカル講座

期日 令和元年五月十四日（火）
会場 コンセーレ（大ホール）
参加 百十九名
内容 「手作りおもちゃ作り」
講師 洗足こども短期大学
専任教授 黒須 和清氏

本研修は、工作用具や材料の特性を理解し実際に作ってみることで、作る楽しさや喜びを味わい、感性を磨き、保育力の向上を目指すものである。

紙コップ、たこ糸、割り箸など身近な素材を使って作る手作りおもちゃの数々に目を輝かせる受講者たち。黒須教授がおもちゃを作りあげる度に会場全体から驚きや感嘆の声が漏れた。研修では実際に保育現場で製作するときのポイントや注意点も交えながらアイデアいっぱい



いのお話を聞かせていただいた。後半では、自分で手作りおもちゃを作る時間が設けられた。一気に会場は静まり返り受講者たちのハサミの音が響き渡る。

おもちゃは紙コップを使ったタコ人形から割り箸とスポンジで作る鳥のバタバタ人形、濡らしたリボンで紐をこすると鳥や犬の声が出るおもちゃなど簡単に作ることが出来るものであった。出来上がった作品を何度も見直し、動きの確認を行い改めて喜びの声をあげる受講者も多数見られた。

限られた時間の中での製作ではあったが、すぐに現場で実践できる保育の引き出しが増えたことで今後にどう生かしていけるか今から楽しみである。



資質向上研修①「県外視察」

期日 令和元年6月6日（木）
視察先 認定こども園こどもむら
参加 三十二名

埼玉県久喜市にある『認定こども園こどもむら』で視察研修が開催された。

午前中は学校法人柿沼学園が運営する栗橋さくら幼稚園、子育て支援センター森のひろば、学童クラブの保育施設の見学をさせていただいた。栗橋さくら幼稚園の園庭は自然豊かな環境で、季節を感じながら遊びに没頭している子ども達の姿が印象的であった。また、室内にも自然物をふんだんに使用したり、こだわりの絵を掲示したり興味深いものであった。

午後は学校法人柿沼学園理事長、柿沼平太郎氏の講話に参加した。「未来を切り拓く子ども達を育てる」という保育理念を掲げ、主体的な生活と遊び

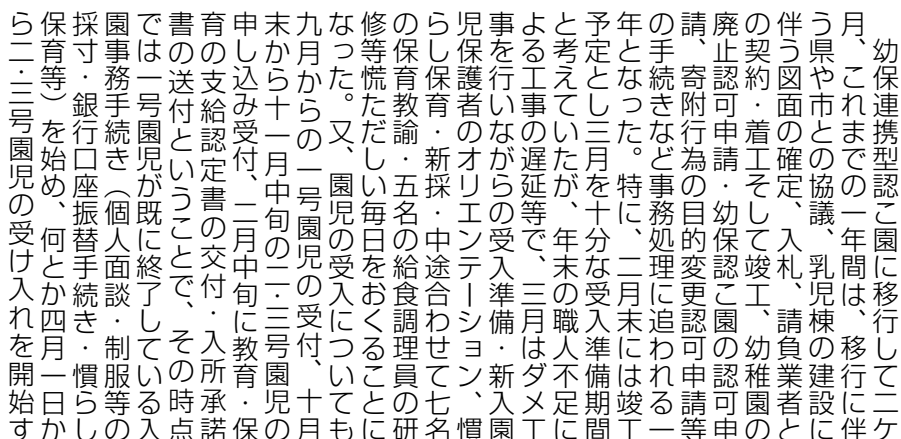


を通して生きる力を育むことを目指しているということであった。子ども達は勿論のこと、職員の間でも大切にしている、企業主導型保育所も開所し働きやすい職場を目指しているということだ。また、園を知ってもらえるよう、地域との交流も重視しているということであった。

今回の視察研修を通して、改めて「子ども主体の保育」の重要性を考えさせられた。自園の保育を磨いていきたいと思う。また、子育て世代だけでなく、様々な年代の人との繋がりを大切に、地域に密着した園作りをしていきたい。



平野 章雄



ることができた。当園は認可定員三十五の幼稚園で平成十四年から十四年間、入園申込日の前日から並んだり、受付してすぐ一杯になったりで結果的には定員超過の状態が続いた。当時の私学助成園では、保護者から園を評価してもらい入園していただくための他園との競争は当たり前だった。未就園児教室や園庭開放等を積極的に行い、その結果、未就園児教室会員は、一五〇人に達した年もある。同時に卒園・就学をして終わりではなく、卒園後も園との関係を絶やさないよう園行事の夏祭り、夕涼み会、バザーなど役割をもつての参加を促し、園児との交流も重ねた。バーベキュー会やハイキング、キャンプなどにも相当の卒園児がかけつけた。近年になり当園も保護者の社会参加が六割近くになり預かり保育も平日で四〇〜五〇人、長期休業日は一〇〇人近くになっていた。又、徐々に定員超過の状態も無くなり、一〇〜一五名の定員割れの状況に入ってきた。小山市でも出生数の減少から学年一四〇〇人台から一二〇〇人台に落ち込み、保育園への二歳児の就園率は六〇%に達していた。園児減が始まり、幼稚園のようにすべての子どもを受入対象でない施設では、保護者の変化するニーズに対応することはできなくなっている。

同時に保護者



の園に求める内容は、保育の質や内容とも多様化し、対応した施設づくりをしていかないと少子化がますます進む中、園児の確保はますます厳しい時代になる筈である。幸い当園は現在まで、地域の幼児教育センターとしての役割を担うべく、平成十八年から学校法人立の低年齢児の小規模保育園（定員三十五名）を開園し、同一地域に社会福祉法人立の保育園（定員九十名）を平成二十八年度から開園し、乳児保育にも力を入れてきた。そして、卒園児に対する支援・責任を担うべく、学童保育クラブも平成一〇年から自主的に行っていた。現在では、学童保育クラブ三ヶ所（定員一五〇名）を運営している。これからは乳児から児童までの地域の子育て支援センターとして、全ての子どもに平等な教育保育の提供が求められる。そのためには、四十三年間地域に貢献してきた幼稚園を認こ園に移行して、保育園・学童保育クラブ・学校・地域自治会・関係機関とのネットワークを作り、地域力を高めて地域の育児支援の基盤を作り上げることが当園の使命と考え、そこを目指すことが認こ園移行の最大の理由である。一つ目は、平成二十七年年度から新制度がスタートし、国は様々な特例を設けて、平成三十一年度末までに移行を促進する特例期間を設けた。国が大きく舵をとり、現在までに約七割が認こ園に移行している流れを見過ごすことはできない。特に地域の七割は大きな流れであり、既に移行した園の認こ園に関する情報提供等の努力により保護者の理解も高まっている。この流れに合わせて、十年後を見据え

ることが重要ではないかと思っている。三つ目は、賃金改善制度が導入され、処遇改善加算Ⅰについては幼稚園も自助努力で保育園・認可園に合わせて支給することができたが、処遇改善加算Ⅱが導入された段階で、入園料は平成五年から、保育料も平成二十二年据え置き、そして園児減の状態の中、幼稚園の財源確保は厳しく対抗することはできない。同時に処遇改善加算Ⅱの四万円支給は、その組織の中で副主任保育士又は専門リーダーに対してということとで、各法人で決めることができるため、当園で運営している三園の職員の給与がアンバランスの状態になってしまったこともある。理事長として職員の公平さ一番に考え、職員の待遇を考えてきたが限界を感じた。移行したおかげで給与規程を改正し、三園のバランスがとれる給与体系にすることが可能となった。移行して二ヶ月、シフト制への変更により労働時間の減少、有休日数の取得、産休育休の取得の向上等の働き方改革、パート職員の常勤化、離職者の防止、職員のライフサイクルに合わせ働き方を変えながらいつまでも働ける職場環境づくりなど人事・労務管理が重要と感じている。又、職員の日々の打ち合わせ時間の確保、従来の行事の見直し、従来同様の教育保育の質の向上を図るための内部研修など、時間確保のための調整、シフト表の作成、移行に伴う事務量の増加に対応したICT化、一号園児と二号園児の保育、父母の会活動など課題はたくさんあり、目の前の課題にじっくりと取り組んでいく一年にしたい。



教員養成機関・栃幼連懇談会

期 日…令和元年五月二十日（月）

午前十時三十分～

会 場…ホテルニューイタヤ

参加者…出席養成校（順不同）

宇都宮ビジネス電子専門学校

教務課 学校長 羽石良久氏

就職指導部 就職指導部長 分田浩一氏

国際看護介護保育専門学校

教務部 次長 金井孝明氏

教務部 科長代理 屋代健太郎氏

宇都宮共和大学

教育実習担当 准教授 市川舞氏

就職キャリア相談室長 早瀬裕栄氏

佐野日本大学短期大学

学生支援課 課長 飯塚則章氏

足利短期大学

こども学科 教授 丸山政敏氏

國學院大學栃木短期大学

人間教育学科学科長 教授 後藤正人氏

キャリアサポート課 課長 大島澄子氏

白鷗大学

教育学部 講師 山路千華氏

作新学院大学女子短期大学部

幼児教育課 科長 青木章彦氏

キャリア・就職支援課 課長 貝賀勇氏

栃幼連…正副理事長・常任理事

和やかな雰囲気の中、石

嶋勇理事長より挨拶が述べら

れ、その後、富川総務委員長の司会のもと、以下の事項について協議された。

① 栃幼連加盟園に就職を希望する『就職説明会（七月七日）』の実施について

・会場が宇都宮グランドホテルとなるので学生に周知願いたいと栃幼連からの要望。

・JR宇都宮駅西口・宇都宮中央卸売市場（駐車場あり）より無料シャトルバスが運行される。

・途中参加者も歓迎するが、自己の努力で来場すること（シャトルバスは定刻のみ）

② 栃幼連加盟園の就職を希望する『就職説明会（七月七日）』の広告（協賛）について

③ 教員養成校の進路実態調査について（資料参照）

④ 教育実習について

⑤ 幼稚園・認定こども園等の就職に関する諸問題について

⑥ その他

・合同就職説明会の際に、内定通知を学生に渡すようなことが無いよう、注意していただきたいと、養成校からの要望あり。

・一人暮らしに憧れ、家賃補助の高い県外に行く学生が増えている傾向にあると養成校からの意見あり。



県内教員養成校における進路状況実態一覧

	卒業生数	幼稚園		認定こども園		保育園		その他	その他に就職した具体的施設	令和元年度卒業見込み者数
		県内	県外	県内	県外	県内	県外			
足利短期大学	71名	5名(7%)		20名(28%)		21名(30%)		25名(35%)	障がい者支援施設・一般企業、他	62名
		5名(100%)	0名(0%)	7名(35%)	13名(65%)	9名(43%)	12名(57%)			
宇都宮共和大学	37名	3名(8%)		9名(24%)		12名(32%)		13名(35%)	福祉施設・一般企業・進学	40名
		3名(100%)	0名(0%)	9名(100%)	0名(0%)	8名(66%)	4名(33%)			
宇都宮ビジネス電子専門学校	15名	2名(7%)		3名(20%)		6名(40%)		4名(33%)	保育士・進学・結婚	15名
		1名(100%)	0名(0%)	3名(100%)	0名(0%)	6名(100%)	0名(0%)			
國學院大學栃木短期大学	65名	7名(11%)		25名(39%)		12名(18%)		21名(32%)	小学校教諭・学童保育指導員・障がい者施設・公務員・一般企業・編入学	67名
		6名(86%)	1名(14%)	18名(72%)	7名(28%)	8名(67%)	4名(33%)			
国際看護介護保育専門学校	45名	5名(11%)		5名(11%)		25名(56%)		10名(22%)	児童養護施設・発達支援センター・学童保育・障がい者施設・障がい児支援施設	41名
		5名(100%)	0名(0%)	5名(100%)	0名(0%)	19名(76%)	6名(24%)			
作新学院大学女子短期大学部	132名	26名(19.7%)		30名(22.7%)		63名(47.7%)		10名(7.6%)	保育士・支援員・事務職・販売職	138名
		26名(100%)	0名(0%)	30名(100%)	0名(0%)	48名(76.2%)	15名(23.8%)			
佐野日本大学短期大学	84名	8名(10%)		15名(18%)		43名(51%)		18名(21%)	児童養護施設・障がい者支援施設・児童家庭支援センター・学童保育所（児童館）・一般企業・進学	95名
		7名(88%)	1名(12%)	13名(87%)	2名(13%)	33名(77%)	10名(23%)			
白鷗大学	123名	6名(4.9%)		28名(22.8%)		53名(43.1%)		36名(29.2%)	認可外保育施設・小学校教諭・一般企業・進学・留学・小規模保育事業所	82名
		5名(83.3%)	1名(16.7%)	27名(96.4%)	1名(3.6%)	35名(66%)	18名(34%)			
合 計	572名	61名		135名		235名		138名		540名

育センターでは、幼小の接続に関する

【幼小の接続に関する指導資料】
幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために
 ～「幼稚園から小学校へ」「小学校から幼稚園へ」の移行～

幼稚園1年生は「ゼロからのスタートではありません」
 上れない児童 小学校 下れない児童
 幼稚園 小学校

また、幼稚園等と小学校の教職員が、合同の研修会や相互参観などを通じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しながら、互いの教育内容や指導方法について理解を深め、子どもの育ちをつないでいくことが求められています。

平成二十九年三月に改訂・告示された幼稚園教育要領等が、昨年度より全面実施となっています。

幼稚園等においては、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要であり、そのことが小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながっていきます。

学校段階等間の接続が、要領等改訂のポイントです！



「保育者としての」「幼児期の保健管理と危機管理」「幼児期の教育の基本」「保育の実践と

四月三日、桜の花も満開までと一歩という中、総合教育センターにて新規採用幼稚園教諭等研修第一日を実施しました。

開講式では、桐渕ゆかこども政策課長、石嶋勇 栃幼連理事長、新村幸江 幼児教育センター長から挨拶があり、新採用者の温かいエールが送られました。

新規採用幼稚園教諭等研修

指導資料「幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために」(リーフレット)を作成し、三月に各園に配布させていただきました。

本リーフレットは、接続期に大切にしたいことを「カリキュラムをつなぐ」「保育と授業をつなぐ」「一人一人をつなぐ」という三つの「つなぐ」からまとめたものです。子どもの発達や学びの連続性を確保するためにも是非一読いただくとともに、接続期のカリキュラムの見直しの視点にしたり、園内研修の資料にしたり、幼小の交流活動の計画や振り返りに用いたり、各園の実態に合わせて御活用ください。

令和〇〇年度 幼児教育要領等
 (更新の指導資料)

項目	幼稚園	小学校
1. 幼児教育の目標	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を達成すること。	小学校の目標と連携して、幼児期の学びを継続すること。
2. 幼児教育の内容	幼児期の学びの目標を達成するために、幼児期の学びの内容を充実させること。	小学校の学びの内容と連携して、幼児期の学びの内容を充実させること。
3. 幼児教育の方法	幼児期の学びの目標を達成するために、幼児期の学びの方法を充実させること。	小学校の学びの方法と連携して、幼児期の学びの方法を充実させること。
4. 幼児教育の評価	幼児期の学びの目標を達成するために、幼児期の学びの評価を充実させること。	小学校の学びの評価と連携して、幼児期の学びの評価を充実させること。

「記入例」

幼児期の「個別の指導計画」の参考様式を作成しました

各園に送付させていただきましたが、県やセンターのウェブサイトからもダウンロードできます。様式その他、記入例、記入の方法も作成しましたので、御活用ください。

子どもの心に寄り添いつつ、保育者としての専門性を高めていけるよう職員一同支援させていただきます。



省察」の講話・演習を通して、新採用者からは、「社会人としてあるべき姿を確認し、気が引き締まった」「子どもの感性を豊かにできるような環境の構成を心がけていきたい」「子どもの行動には理由があり、記録に残すことで、自分の関わり方を省察することにもつながることが分かった」など、様々な学びの声がありました。

- 神長顧問
- 高根沢指導主事
- 富川指導主事
- 黒川指導主事
- 栗田幼児教育専門員
- 前原副主幹
- 新村センター長
- 栃木幼児教育専門員



新メンバー

● 指導主事 富川 千明
 小山市立若木小学校より

● 幼児教育専門員 栃木 肇子
 宇都宮市こども部保育課より

センター職員紹介

研修の申込みは「こちらから」
 研修の申込みは、こちらの研修案内(三月送付)を御活用ください。研修内容とFAX申込書が一体となっており、そのまま送信できます。

今年度も、たくさんの方の参加をお待ちしております。

つり下げしておけます。



こども政策課だより

四月の定期異動により、石崎課長補佐（総括）のほか、子ども・子育て支援班では林班長、菅谷主任、北山主任が配属となりました。引き続き幼児教育や子育て支援の充実に努めて参りますので、本年度もよろしく願います。



● 高岩主事
● 北山主任
● 菅谷主任
● 石下主任
● 三井主事
● 塚田主事

● 神地主任
● 増子副主任
● 林子ども・子育て支援班長
● 桐渕課長
● 石崎課長補佐（総括）
● 大根田課長補佐
● 谷川係長

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリング実施について

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリングを次の日程で実施します。

私学助成を選択する幼稚園のみが対象となります。御多忙のところ誠に恐縮ですが、担当者の出席について、御協力をお願いします。

● 日程
七月一日（月）・三日（水）

● 場所
栃木県庁本館六階大会議室一

● その他詳細については、別途送付する通知文を参照してください。

各種届出書類について

● 園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、速やかに各種届出を提出願います。

● 学校法人の平成三十年度決算書及び平成三十一年度収支予算書の提出期限は、六月二十八日です。

● 平成三十年度決算に伴う資産総額の変更登記は、五月までに行い、登記済届を六月二十八日までに御提出ください。（寄附行為を変更済みの法人においては、変更登記を六月までに行い、登記済届を七月三十一日までに御提出ください。）

令和元年七月～九月までの事業予定

7月1日	※スタートカリキュラム講座
7月4日	栃幼PTA総会
7月5日	012歳児研修
7月7日	就職説明会
7月12日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
7月18日	資質向上研修（園内研修）
7月22日	012歳児研修
7月23日	※スキルアップセミナー
7月25日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
7月30日	第66回県教研大会
8月1日	バス安全運転講習会
7月31日	新採研（集合研修）
8月6日	免許状更新講習
8月10日	※スキルアップセミナーⅡ
8月19日・20日	新採研（宿泊研修）
8月21日・22日	（公財）幼児教育実践学会（静岡県）全日幼児関東地区教研大会（山梨）
8月23日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
9月2日	保育テクニカル講座
9月10日	保育セオリー講座
9月11日	設置者園長研修会
9月18日	※教育課程研究集会
9月18日	※は幼児教育センター事業

慶事

● 令和元年度
県各種功労者表彰（県知事表彰）
みふみ認定ことも園
理事長・園長 國吉真理子 先生

事務局だより

新職員紹介



六月十六日付にて
当事務局職員として、
高村亜希子（50）さん
が採用されました。何かと不手際な点もあるかと思いますが、よろしくご指導ください。よろしくお願いいたします。

編集後記

五月に入り、園児たちの生活も少しずつ軌道に乗ってきたようである。元気に園庭で鬼ごっこをしたり、友だちと仲良く遊具を使って遊んだりしている子どもたち。昔も今も変わらない幼稚園の姿がそこにはある。しかし、私が幼稚園の仕事に関わるようになった二十年前の子たちとはどこか違うような子が増えていると最近感じるようになった。

一番目につくのは、「みんなと遊べない子ども」の増加である。子ども同士で遊ぶより、先生（大人）と話したり遊んでもらったりすることを好む傾向が見られる。遊び自体を主体的に出来ないのである。小中学校でも「人との接し方や関係づくりが分からない」「子どもの増加が問題になっているが、幼稚園でも同じ傾向が見られる。」

原因としては、社会環境の変化が一番に挙げられるのではないだろうか。核家族や共働き夫婦の増加。それに伴う多忙間による「子育て意識の低下」。子どもの相手をするのが大変なため、幼少時よりスマートフォンやタブレットなどデジタルメディアを自由に与えてしまつた。そのような中、幼稚園が果たすべき役割は以前にも増して大きくなっていると感じる。

以前、研修会で「保育で一番大切なことは、『主体的、対話的で深い学び』を実践していくこと」と学んだが、行事等を通して、園児たちが没頭できる、共同的な活動をさらに取り入れていきたい。

最後になりましたが、今回もまた多くの皆様方のご支援、ご協力により一三七号が発行できましたことに感謝申し上げます。

（認定）こども園高ノ台幼稚園
吉羽 俊明